

「あなたがいた端」

—2 稿—

2026/2/19
雨森 れに

〈人物表〉

両角 もろすみ
 紬 つむぎ

(16) 高校生

藤森 ふじもり
 大樹 だいき

(28) 若く見えるサラリーマン

1. 山手線・内回り・車内（昼）

電車の音。

制服姿の両角紬（16）、シート中央に座っている。スマホを触るフリをしながら、ドア横にいる男を見ている。

スーツ姿の藤森大樹（28）である。

大樹は仕切り板に体を預け、車内表示の広告を眺めている。

紬の口が自然と緩む。

電車が止まり、ドアが開く。

大樹、降りる際に名刺入れを落とす。周囲の人間が手伝い、事なきをえる。が、一枚の名刺が車内に残されてる。

紬、その名刺を拾う。

2. 池袋駅・構内（昼）

通勤ラッシュ過ぎ。ピーク時よりは人が少ない。

紬、時間を確認してから改札に入る。

3. 山手線・内回り・車内（昼）

目白過ぎ。人がまばらに立っている。

紬、座っているが、落ち着かない様子。

車内アナウンスが高田馬場を告げる。

人が出入りし、最後に大樹が乗る。

大樹、仕切り板に背を預ける。鞆についている小さな動物チャームがきらりと光る。

紬、手帳から名刺を取り出す。「株式会社郷辰 システム研究開発グループ エンジニア 藤森大樹」とある。

大樹、広告動画を眺めている。

紬、迷いつつも、渡すことを決意。

立ち上がろうとする。

が、紬の隣、中年男性が大きなくしゃみ。紬、迷惑そうに隣を見る。

中年男性は、鼻をすする。

紬、うんざりしながらも立ち上がる。

大樹に近づく。

しかし、大樹はイヤホンをして目を閉じている。

紬 「あの、これ、この前落としてましたよ」

紬、名刺を差し出す。

大樹、反応がない。

紬、大樹に名刺をツンツンと当てる。

大樹、紬と名刺の存在に驚く。

慌ててイヤホンを外す。

大樹 「え？ あ、これ、俺の？」

紬、大樹の顔色の悪さに気づく。

紬 「急にすみません。昨日、落としたところ見ちゃって」

大樹 「わざわざ拾ってくれたんですね。ありがとうございます」

大樹、申し訳なきように名刺をしまう。

紬 「変な事言うんですけど、体調悪いですか？ 顔、真っ白

ですよ」

車内アナウンスが新大久保を告げる。

大樹 「ただの寝不足ですよ。学生さんにバレちゃうなんて恥ず

かしいな」

電車が止まり、ドアが開く。

アジア系外国人の団体が喋りながら入ってくる。

紬は大樹から離れた場所に追いやられる。

紬、大樹となんとか視線を合わせる。

大樹、笑顔で手を挙げて応える。

車内アナウンスが新宿を告げる。

一気に人が降りる。大樹もいなくなる。

降りた数と同じだけ、人が乗ってくる。

紬、ホームを見る。

大樹が軽く頭を下げ、去っていく。

4. 学校・教室（昼）

昼休み。生徒たちは自由に過ごしている。

紬、そしらぬ顔で教室に入る。

女子1「もうお昼ですけどー」

紬「うち、朝弱いから」

紬、机に鞆を置く。

女子1、紬をじろじろと見る。

女子1「いうて、ビジュ決まってるじゃん」

紬「人間、諦めるとメイク時間が長くなるもんよ」

女子1と紬、けらけらと笑い合う。

女子1「でも単位大丈夫なん？」

紬、固まる。

女子1「ええー……」

5. 新宿（夜）

代々木く新宿間の実景。ビル群、大ガードなど。

みな、他人に興味なさそうに、忙しく歩いている。

6. 山手線・外回り・車内（夜）

新宿駅付近。ぎゅうぎゅう詰め。

紬、狭そうにしている。

衝撃があり、急停車。線路内立ち入りの報せ。

苛立つ者や電話をかける者、諦めたようにため息を

つく者などがある。

7. 新宿駅・線路（夜）

紬の乗る電車が、ホームに半分ほど到着している。

電車の目前には駅員が複数降り立ち、青いビニール

シートを広げている。

ホームからは野次馬が覗き、撮影する者もいる。

次々に駅員や警官が到着し、野次馬を散らせる。

8. 山手線・外回り・車内（夜）

紬、人の間から窓を見る。

ホームの野次馬を認める。

小さなため息。

9. 新宿駅・ホーム（夜）

紬の乗る電車、前2両を除き、ホームに到着している部分の扉が開かれる。

ぞろぞろと人が出ていく。

紬も押されるようにして出る。

降りてもうまく動けず、自販機の隣に逃げ込む。

紬の靴に何か当たる。

下を見ると、大樹のつけていた動物チャームがある。

しゃがんで拾う。

チャームを眺め、端に血がついていることに気づく。

喉がヒュツと鳴る。

視線は電車へ。

人がいなくなった車両。

前2両には外から目張りされている。

その先にはビニールシートを広げる駅員が並ぶ。

紬、近くにいる駅員の目を盗んで車両の中へ。

10. 山手線・車内（夜）

紬、無人の車両を走る。先頭へと。

時折、接続部のドアに邪魔されながら。

後方車両にいた駅員が紬に気づいて追いかける。

紬、目張りされた車両に到着。

運転席のガラスに血がついている。

駅員 「ちよつと！ 立ち入り禁止だよ！」

駅員、紬を強く引っ張る。

駅員 「興味本位で見るもんじゃないよ。ほら、来い」

紬、無抵抗。

駅員、開扉中の車両から紬を押し出す。

紬 「あの」

11. 新宿駅・ホーム（夜）

駅員 「なに。言っとくけど見せないからね」

紬 「知り合いかもしれないわ」

駅員、神妙な面持ちになる。

紬 「男性ですか」

駅員、少し思案してから頷く。

紬、驚愕の表情。

駅員、小声で、

駅員 「サラリーマンだけど、10代ぐらいに見えた」

紬から乾いた笑いが漏れる。

紬 「じゃあ、ちがうかも、です」

駅員 「ならいい。振り替え輸送は？」

紬、頷く。

駅員に頭を下げ、その場を離れる。

スマホでこの事故について検索しながら、人ごみの中に消えていく。

12. 山手線・内回り・車内(昼)

紬、ドア横の仕切りに寄っかかっている。いつも大樹がいる場所である。表情は虚ろで、泣き腫らした目をしている。

車内アナウンスが高田馬場を告げる。

紬、乗ってくるはずの大樹を探す。だが、いない。

閉扉と共に口元を押しさえる。

鼻をすすり、鞆のポケットをまさぐる。

紬の手が止まる。

ポケットを広げる。そこにはティッシュと大樹の動物チャームが入っている。

紬、チャームを握り、目を瞑る。

電車の音、車内アナウンス、喋り声。すべての喧騒が紬を置き去りにする。

13. 学校・教室(昼)

女子1がスマホを見て、

女子1 「紬、明日からちゃんと来るってよ」

女子2 「なにになに。朝いけるようになったん」

女子1 「さあ？ でも今日は休むって」

女子2 「寝溜めでどうにかしようとしてんな」

女子1、2が笑い合う。

14. 新宿駅（昼）

ターミナル駅らしい混雑具合。

みな、忙しく歩いている。

15. 新宿駅・ホーム（昼）

ニュースの音声「昨日午後9時ごろ、新宿駅で、山手線外回りで人身事故が発生しました。20代男性が死亡。この影響で、山手線は外回り、渋谷〜池袋間で約40分にわたり運転を見合わせました。本件によりホームドアの——」

紬、人を避けながらゆつくりと歩く。

昨晩ビニルシートで隠されていたあたりに到着し、立ち止まる。

ファン、と警笛が鳴る。

風に煽られる、紬の髪。

おわり